ロンドン旅行記（その 6）

友人の 村松友視君の書きものには必ず静岡・清水時代の自伝的なことが出てくる。村松君は奥様から「他人にはどうでもよい自分のことを、さも重要そうに念入りに書く『自分病』」と評されたそうだ。「自意識過剰」とか「自己中心的」とは異なるので、この「自分病」という言葉は適切だろう。この旅行記の完結編となる(その 6)は僕の「自分病」の症状が出たものと思われたい。英語で egoism も egotism も自己中心の意味に使われるが、egoism は「実際の行動の動機が自分を利することにある」という哲学的意味があり、egotism は「自己執着」の意味合いが強いそうだ。「自分病」は従い egotism に近いかな？

[Á la recherche du temps perdu = In search of time lost = 失われた時を求めて]

ロンドン北西の Stanmore に住んでいた。Hertfordshire で Greater London に入り、Central London には入らないが、電話番号は London とおなじ地域番号だ。
写真の家は当時もっと汚かった。今は、当時の家主の息子さんが住んでいて、きれいに改修されている。家の南側(写真は北側)はサッカーグラウンドを何面もとれるほど広い、西洋芝の Playground で子供が遊ぶには最適だった。

Stanmore から Jubilee Line に乗り、シャーロック・ホームズの Baker Street で Bakerloo Line に乗りかえ、二つ目の Oxford Circus で降りる。赴任時 Stanmore は Bakerloo line の北西に二つに分かれた線の一つだったが、女王即位 25 周年 Silver Jubilee を記念して 1977 年に Jubilee line の終点となった。この年は、バッキンガム宮殿まで、旅行で来英した僕の父母も連れて行き、式典に向かう エリザベス女王の乗馬姿を近くで拝見した。

右の写真は「かつての通勤路」でなく、今回 Covent Garden で足元に見つけた 1977 Silver Jubilee の埋め込み。

Oxford Circus は Regent Street と Oxford Street との交差点。事務所は そこから Regent Street を北へ歩いて 1 分足らず。Walmar House 296 Regent Street.

夏は日が長く、冬は日が短い。同じ夜 6 時~ 7 時に Office を出ても、夏は 4 時ころに早引けするような感じ、冬は 9~10 時まで残業して帰るような感じがした。

ここは Shopping 街で、クリスマス翌日から 1 月 20 日まで Sale(安売り)。よいものは早くいかないと無くなってしまうので、寝袋で行列を作って開店を待っている人たちもいた。駐在当時の買い物は陶器、ナイフ・フォーク、鍋などだったが、日本へ帰ってからあまり使用していない。上の写真は Oxford Street の今年のクリスマス・イルミネイション。デザインはおとなしいがギフト・ボックスのデザインは、いかにも買い物に誘導している感じ。

駐在中もっとも見事な紅葉（というより黄葉）は家族でケンブリッジへ行ったときにみたもの。次に印象に残っているのが、帰任を数カ月後に控えた 1983 年秋のハイドパーク。「もうすぐロンドンを去る」ちょっと残念な思いを家族 4 人が持ったのである。今回は遅すぎたがハイドパークを写真にとった。ハイドパークコーナーに昔はなかった馬の頭がある。

誰でも演説のできる Speaker's Corner の近く。英語で「一番確かな筋から直接(聞け)」との表現で"straight from the horse's mouth"と言う。そのためかな？とは僕の勝手な推測。(表現の由来：馬の本当の年齢は歯を見れば分かる)

今回の目的の一つは英語の参考書 3 冊（書き方、語源辞典、Speech の例）を買うことだったが、いずれも満足のいけるものを偶々各 9.99 ポンド(約 1,300 円)の軽いペーパーバックで買うことができた。蔵書を減らしていかねばならない自分(姓も本多から本少に変えなければならないのだろうか？）としても、まあ許容範囲だろう。英文学のテレヴィ・ドラマ化の DVD はバーレン（昔英国の植民地）でかなり入手したが、ロンドンへ行けばもっとあるだろうと思って探したが、見つけたのは George Elliot の「Mill on the Floss」たった 1 件。沢山の荷物を持ち帰られたくない家内はほっとしているだろう。ただし今回の目的ではなかったクラシック音楽の CD は半額セールのものを数点買ってしまった。

さて今度は自宅の近く。11 月 17 日の 10 時半から 1 時半まで 3 時間も歩いた。

Blockley Avenue

家の南の Playground

子供と遊んだ Edgwarebury Park
(近くの Boradfield Nursery School は
見つからなかった)

子供と遊んだ Stonegrove Park

Edgware 商店街の一角　　**Edgware 図書館（奥の建物は昔の面影）**
(右端の建物は食料品スーパーのウエイトロウズ)

Stanmore には大きな商店街がないため、買い物は Edgware まで自動車で行った。
駐在の 7 年間に子供はそれぞれ 3 歳、2 歳から 10 歳、9 歳となった。 子供が大きくなってからは子供 2 人と家内が自転車、僕はランニングで Edgware へ行ったこともある。
1990 年代だったか、東京からの出張の週末に今回と同じように Stanmore, Edgware を訪れたことがある。その時すでに、ケーキ屋 Lindy, 本屋 Fagin は Edgware 商店街から姿を消していた。写真の図書館の先に小さな教会があり、娘をバレー（踊る方の） の稽古のために送り迎えしたのもよい思い出だ。

また家族 4 人で、Brent Cross にある Swimming Pool によく泳ぎに行った。今回は遠くて行けなかった。家の近くのラウンドアバウト(ロータリー状交差点)標識に Brent Cross と示されていたので、かわりに、その写真を添える。

ロンドン駐在中は仕事も私生活も本当に楽しかった。赴任させて下さった当時の上司・役員たち、日本から本などを送り続けてくれた両親にここに深く感謝したい。そして何よりも、幸せな時を共有してくれた家内と子供たちに改めて「ありがとう」。

（その 6 終わり）